

2005「植村直己冒険賞」受賞者決まる

ゆっくり歩いて行こう

作詞・作曲 永瀬忠志

一歩ずつ 一歩ずつ 歩いて行こう
ゆっくり ゆっくり歩いていけば
それだけ それだけ 多くのことが
心に 心に 刻まれる

一歩ずつ 一歩ずつ 生きて行こう
ゆっくり ゆっくり生きていけば
それだけ それだけ 生きてることを
感じて 感じて 生きて行ける

一歩ずつ 一歩ずつ 歩いて行こう
ゆっくり ゆっくり歩いていけば
たとえ たとえ 道は険しくても
くじけずに くじけずに 乗り越えて



サハラ砂漠の砂にめり込んだ重いリヤカーを前から引きずるように引く。リヤカーには水や食料、旅の装備がたっぷり積んである（1990年3月サハラ砂漠徒歩縦断中、アルジェリアにて）

リヤカーを引き世界各地を徒歩踏破(4万km)

永瀬忠志さん

「植村直己冒険賞」は、本市出身の冒険家・植村直己さんの人となり^{なり}を後世に継承するために平成8年に創設したもので、毎年、自然を相手に創造的な勇気ある行動をした人や団体に本賞を贈っています。

2月16日、東京ひょうご倶楽部で2005年の受賞者の記者発表が行われ、リヤカーを引いて世界各地を歩き回り、踏破距離が地球1周分の距離4万kmに達した永瀬忠志さん（大阪市在住、50歳）が、記念すべき第10回目の受賞者に決定しました。

受賞の一報を聞いた永瀬さんは「小さなことをコツコツやってきただけなので恐縮しています。私のような者でよろしいのでしょうか」と驚きの様子でした。

なお、授賞式は、6月3日に日高文化体育館で行う予定です。

問合せ 植村直己冒険館 ☎44 - 1515

旅の相棒はリヤカー

歴代冒険賞受賞者に限って
みても、自転車、ヨット、熱
気球など、さまざまな道具が
冒険に利用されています。永
瀬さんの旅の相棒は、一風変
わつていて「田吾作^{たごさく}」と称す
るリヤカーです。

「リヤカーマン」と異名を持
つ永瀬さんが初めてリヤカー
で旅したのは、大学時代の
国内一周徒歩の旅でした。北
海道でリヤカーを見かけ、荷
物を積める便利さから2万円
で中古を買い、リヤカーとの
旅が始まりました。70日間で
日本を縦断した後、幼いころ
からの夢だった海外旅行もリ
ヤカーで果たそうと、22歳で
オーストラリアへ。1000日
間かけてオーストラリア大陸
4200キロメートルを横断
しました。

先が見えない人生の方
がおもしろい

その後、26歳から27歳にか
けてアフリカ大陸横断に挑み
ましたが、途中、リヤカーご
と盗難に遭い、やむなく断念
しました。帰国後、高校の教



ジャングルの村で一晩テントを張って寝た。朝、子どもたちが集まって来た。言葉は通じないが、身振り手振りで旅の話をした(1989年9月アフリカ大陸徒歩横断中、コンゴにて)

員として勤務しましたが、このまま先の予想のつく生活を続けていくことへ次第に辛さを感じるようになり、33歳のとき、安定した生活を捨て、再度、アフリカに戻る決意をしました。前回のスタート地点であるケニアのモンバザからもう一度挑戦し、ジャングルやサハラ砂漠を越えて、ゴールのパリに到着、376日間かけて1万1100キロメートルの冒険に成功しました。

地球2周目の旅に挑戦

2005年には、地球2周目の旅に出発しようと、再度、相棒のリヤカーとともに、歩き旅の原点となった日本縦断

を引き続いて、中国・タクラマカン砂漠やモンゴル、南米大陸など世界の主要大陸を踏破し、2004年には、歩行距離が、地球1周分にあたる4万キロメートルに到達しました。

永瀬忠志さんプロフィール

1956年、鳥根県生まれ。50歳。荷物を「田吾作」と名付けたリヤカーに積んで歩き、「リヤカーマン」の異名を持つ冒険家。2児の父でもある。



主な冒険経歴

- 1975年(19歳) 日本縦断(3200km)
- 1978~79年(22歳) オーストラリア大陸横断(4200km)
- 1989~90年(33~34歳) アフリカ大陸横断・サハラ砂漠縦断(11100km)
- 1998年(42歳) モンゴル縦断(864km)
- 2000年(44歳) 中国・タクラマカン砂漠縦断(590km)
- 2001年(45歳) アフリカ・カラハリ砂漠縦断(591km)
- 2003~04年(47~48歳) 南米大陸縦断(8800km)
- 2004年(48歳) 沖縄1周(312km)し、総距離が地球1周4万km到達
- 2005年(49歳) 日本縦断(3000km)

著書

- 『田吾作号の冒険』『田吾作、アフリカに行く』『サハラてくてく記』『アジアてくてく記』『リヤカーマン』

に挑戦。30年前の冒険でお世話になった人たちを訪ねながら、北海道宗谷岬から鹿児島県佐多岬まで3000キロメートルを79日間で踏破しました。「歩くのは辛く、辞める理由を探しながらも、歩いてよかったと感じる一瞬がありません。それは、美しい自然だったり、人とのふれあいだったり…。その瞬間のために歩いているのだと思います」と語る永瀬さん。時速5キロメートルの歩みで進む「田吾作」との旅は、これからも続いていきます。



30年前の冒険でお世話になった人たちにお礼を言いながら再び日本を歩いた(2005年8月日本徒歩縦断中、大分県にて)